

◇平成30年／2018年1月号 第89号◇



フジサンケイグループ

全産経国際書会報

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



風岡五城理事長 揮毫

戌は十二支の11番目で、「戌」と「一」から成り立ち、「戌」は茂を意味し、「一」は陽気を表わします。植物が茂る中に陽気を含んでいる形で育成の意味があります。また犬は多産で、お産が軽いことから「戌の日」は安産の吉日とされ、勤勉で努力する人の象徴とされました。日ごろの皆さまの努力が実り、収穫へ向かう良い年となりますように。



産経新聞社
事業本部長
伊藤 富博

創立35周年を成功させよう

明けましておめでとうございます。

旧年中は、産経国際書会会員の皆様方におかれましては格別のご支援を賜りました。あらためて御礼を申し上げます。

今年は、産経国際書会にとって、勝負の年です。私ども新聞社の先輩や書会の偉大な先人、諸先生方が立ち上げられた産経国際書会が、いよいよ創立35周年を迎えます。

皆様のお蔭を持ちまして、現在、毎日、読売の書会とともに全国的な組織に成長いたしました。

この記念の年にあたり、私ども新聞社としては、大きく2点ほど年頭の誓いをしたいと考えております。

一つ目は、今年の出品点数は6500点に限りなく近づけたいと思います。昨年は6000点の台を割り込みました。もちろん、書道界の厳しい状況は認識しておりますし、いたずらに数を競うよりも、作品の質を向上することが大事だというご意見もあるかと思ひます。

私どもとしては、数も質も両方、向上させ、その上で3年後の2020年には7000点を目指したいと考えています。

そして二つ目は、35周年記念事業の中でもメインである「日本台湾交流書道展」を成功させることです。国際交流は近年、途絶えていましたが、やはり“国際”の名を冠した書会であり、内外に存在感を発信するためにも成功させることが不可欠です。

どれも皆様方のご協力が欠かせないことばかりです。新聞社、書会が一心同体となって取り組めば、絶対に成功します。

皆さん、一緒に頑張りましょう！



産経国際書会
理事長
風岡 五城

節目という以上に大事な年

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えると、また初心に返って新たな挑戦への期待が膨らみます。特に今年は産経国際書展の35回記念展という節目の年にあたり、一層その思いを強くします。

産経国際書展は先輩諸先生の努力によって、新聞社系大書展の一角を占めるまでに成長してきたことは皆様もご承知のとおりですが、今のままで良いとする姿勢では、産経の未来は決して明るいものとは言えないでしょう。

年頭にあたり今年の課題を三つ上げたいと思います。

先ず一つは出品数増への転換です。近年の少子高齢化によって厳しい状況であることに変わりはありませんが、手をこまねいている訳にはいきません。数は何といっても書会の根本を支える力となります。出品数増に繋げる対策を書会一丸となって取り組まねばなりません。

二つ目は書会創立35周年の記念事業としての台湾展の成功です。台湾との交流展は18年ぶりとなります。会場は国立國父紀念館、台湾で最高の会場です。基本的には審査会員が対象となりますが、その他の会員も参加可能です。奮ってご参加ください。開幕式に合わせてツアーも計画されています。

三つ目は永遠の課題というべきでしょうが、作品内容の一層の充実です。

今年は節目という以上に大事な年と捉えています。会員の皆様のご理解、ご支援を切にお願い申し上げます。

新年のご挨拶

最高顧問 齋藤香坡



戊戌歳旦、本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。さて、今年もいよいよ書会の活動が始まります。一年の計は元旦にありと申しますように、事を成すに際し気合を入れる上では、新年は大きな支えとなります。

何時の世も対外の政治の難しさは、頭で考えているより遥かに大変で、何故どうしてと言われるようなことでも大きな問題となりがちですが、その原因が各々国の教育環境が異なるもので、人情の無いところには難しいことなのでし

よう。書もただ書いていたのでは上達も望めず基本が大切で、師の教え、古典に学び、基礎が出来る迄は努力研鑽に励むことが、創作への近道であることは周知のことです。安易に変化動きをするより得策かも知れません。

書の深味は人間性の向上なくして確立出来るものでなく、書は人成りの如く、多くの経験の中で培うもので、新たな台湾展の開催は、書会にとって吉と出るか注目の書展となることを願って止みません。呉々もご自愛下さい。

古典で体力向上

最高顧問 田中鳳柳



産経国際書会会員各位には健康で希望に満ちた新年、戊戌（つちのえいぬ）を迎えられたことお喜び申し上げます。年輪を重ねても新年を迎えられるのは素晴らしいことだと思います。我が書会も35年という年輪の経験を生かし、各会員の更なる発展にむけ取り組まなければなりません。それには会員の創作意欲と書の正路の表現が必要です。高い山に登るにはそれなりの体力が必要で、会員が苦しみを克服し古典と取り

組むことが体力を増す要因に繋がると思っています。どうか出品する書作の中に臨書のもつ書美を内蔵して下さい。

臨書でパワーアップするには書の歴史を知ること必要でしょう。学ぶ体制を正面に捉えることを念頭に前進して行こうではありませんか。最後になりましたが、今年は台湾展の成功を念頭に書作の内容を更に充実させたいと思っています。

心機一転・書心一新

最高顧問 村越龍川



新年あけましておめでとうございます。私も筆を友としてはや六十数年が過ぎました。新春を迎えたいま、心を新たにこの一年、書の道をコツコツと牛歩を進めて参る所存です。

ともあれ、書作に熟這習練は可なるも、マンネリは大敵。平成のいまを生きる自身の想いのすべてを一管の筆に託し、新風ただよう書貌^{しよぼう}の創出にチャレンジしてみたいと思います。

「心機一転」「書心一新」が今年の私の座右の銘。日頃ころにある先賢の至言や自分の書作に対する思いを、自戒をかねて記してみます。

- ◎書はむりにつくらず自然体がよい
- ◎書の芯棒は、気韻生動、気品充満なり
- ◎眼識を先行、筆技は後追いでよい
- ◎日々の鍛錬が大事、常に自身の進化を目指すこと
- ◎動中の静、静中に動を内含する筆線を求める
- ◎心の赴くまま、自分の息づかいが聞こえるような字
- ◎古典を学ぶに、新鮮で赤子の様な澄んだ目で接したい

いざ、行かん、交流の都(台北)へ…募集開始、準備着々と…

久しく途絶えていた交流書展開催が今秋に実現し愈々募集開始。昨年9月準備会議で確認した協議項目を携えて、実行部隊4名は3泊4日の日程で台北市を視察訪問した。

到着直後、国立國父紀念館内を回り、台湾開催で全面協力の約束を頂いた中華民国書學會会長で台湾淡江大学教授の張炳煌先生と精力的に交渉。同館最高の展示室「博愛藝廊」と付随壁面を展示場にと提案し、式典会場も張氏の特例の計らいで同時即決した。早速、壁面試算と期間中に諸問題も担当者を交えて相談、台湾側から50名の書家、日本から200点余の軸装出品で館長の了承も取り付けた。開幕式は2日目の日曜午後から「中山大講堂」で行い、揮毫会と交流パーティも有名飯店で同日夕刻

に行う。更にジュニア展交流イベントも企画中。

尚、開催に当り書學會、交流協会の後援協力と今新春展には張先生が訪日ご講演の朗報まで頂き、文字通り記念すべき国際交流展の成功を祈念しつつ目下準備中であり、書会一丸となって大いに盛り上げたい。



両側はストレート…33m



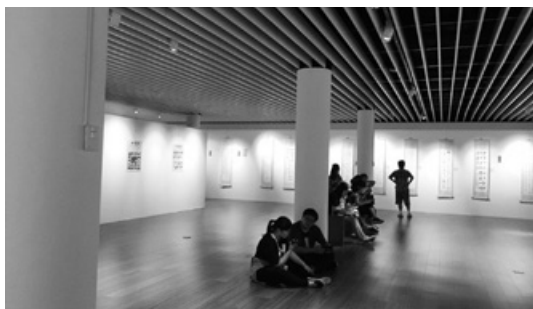
國父紀念館



中山大講堂



博愛藝廊の外にあるガラスショーケース(両側)。35点～40点を展示可能



1階 博愛藝廊



張炳煌先生の「書と音楽のイベント」でご夫妻(中央)と

「2018日本台湾交流書道展」

募集要項

■ 開催要項 ■

- ◆ 名 称 産経国際書会創立35周年記念 2018日本台湾交流書道展
- ◆ 主 催 産経国際書会、産経新聞社、中華民国書學會、国立國父紀念館
- ◆ 後 援 日本台湾交流協会
- ◆ 会 期 平成30年10月27日(土)～11月4日(日) 9時～18時
- ◆ 会 場 国立國父紀念館 1 階 博愛藝廊
No. 505, Section 4, Ren'ai Road, Xinyi District, Taipei City TEL 886-2-2758-8008
- ◆ 入 場 料 無料
- ◆ 開 幕 式 平成30年10月28日(日)午後3時～、国立國父紀念館中山大講堂
- ◆ 祝 賀 会 平成30年10月28日(日)午後6時～、大三元飯店
- ◆ 内 容 2000年に台湾との交流展を行ってから18年ぶりに台湾との海外交流展を行います。産経国際書会の役員、審査会員の作品と台湾を代表する書家約50人の作品を合わせて約260点を、孫文像前での衛兵交代儀式で有名な台湾のランドマークである国立國父紀念館で展示します。会期中、台湾の書家との交流事業も予定しています。多くの先生方にご参加いただき、産経国際書会の代表として、日本台湾の文化交流の一翼を担うことを期待いたします。
- ◆ 代表団旅程 ① 3泊4日(10/27～30) ② 2泊3日(10/27～29)
※旅行代金は、①約19万円、②約15万円で計画中です。

■ 出品要項 ■

- ◆ 出品資格 審査会員
但し、無鑑査、会友会員でも出品希望の方は社中代表者を通して事務局にご相談ください。社中に所属していない方は直接事務局へご相談ください。
- ◆ 募 集 数 210点(1人1点)
- ◆ 展 示 数 日本側作品210点と台湾側作品50点の合計260点
- ◆ 寸 法 半切(縦135×横35cm)または全紙(小画仙) 2分の1(68×70cm)
- ◆ 申込締切 平成30年2月14日(水)
- ◆ 申 込 先 産経国際書会(FAX03-3275-8974)まで。
※但し応募が募集数(210点)に達した場合、締切前でも募集を終了します。
- ◆ 搬入締切 平成30年7月14日(土)必着
- ◆ 出 品 料 5万円(軸装料・運搬費込み)※出品料は下記郵便口座にお振込みください。
ゆうちょ銀行 口座番号00130-2-361309 加入者名:産経国際書会
- ◆ 搬 入 未表装で出品票に必要事項を記入し、日本書道専門学校へ
- ◆ 送 り 先 〒141-0021東京都品川区上大崎2-19-6 TEL 03-3490-2722
日本書道専門学校「産経台湾展係」
- ◆ 特 典 作品を掲載した「2018日本台湾交流書道展」の図録を2冊進呈

東北展

東北展実行委員長
松 崎 龍 翠

会期●9月15日(金)～20日(水) 会場●せんだいメディアテーク

展東北展 贈賞式



仙台伊達家18代御当主伊達泰宗様の御祝辞

去る9月15日から20日まで、杜の都仙台のメディアテークにおいて、第34回産経国際書展東北展が開催されました。

中央から特別展示された幹部諸先生の作品は勿論のこと、今展に展示された東北の作品も昨年にも増して産経以外の諸先生からも高い評価を頂き、実行委員会としても大きな喜びとなりました。

贈賞式では、仙台伊達家18代御当主伊達泰宗様には御多用の中、御来駕と御祝辞を賜りました。また、産経新聞社を代表して事業本部長伊藤富博様、国際書会より風岡五城理事長

のご挨拶を始め、ご遠方より多数の方々に御来臨を賜り、衷心より感謝申し上げます。

恒例となったギャラリートークにおける参加者の情熱も一段と感じることができました。講演会は内閣総理大臣賞を受賞された常任顧問青陽如雲先生による「十七帖の習い方」と題して、骨格を持った草書作品づくり等々感銘深いお話が脳裏に残りました。

今展を通じ地方における書道文化の醸成にささやかでも貢献できた喜び以上に、東北六県・仙台放送の後援と関係者に深甚なる感謝の意を表します。



プロジェクターで十七帖を解説する青陽如雲先生



ギャラリートークと作品鑑賞会



贈賞式風景



力作ぞろいの会場

中部展

中部展実行委員長
村田白葉

会期●11月14日(火)～19日(日) 会場●愛知県美術館ギャラリー

中部地区の文化芸術の中心地、名古屋の「愛知県美術館」において、第34回産経国際書展中部展が開催され、深まりゆく秋の中、連日大勢の入場者で賑わい、盛況のうちに幕を閉じることができました。

今回展も、風岡五城理事長の「高円宮賞」をはじめとして、審査会員の「会長賞」、無鑑査会員の「文部科学大臣賞」、会友の「会友特別賞」、



風岡理事長による作品解説

公募の「東京都知事賞」「愛知県知事賞」等、各部門で特別賞入賞者が続出し、「U23大賞」も静岡県の高田優奈さんが獲得されました。

皆様の素晴らしい活躍は、中部地区のレベルの高さを示すものと思われます。

18日(土)の贈賞式・祝賀会には、大村秀章愛知県知事のご出席を頂き、産経国際書展に対する温かいお言葉を賜り、出席者一同感激いたしました。

またご来賓の原田圭泉常任顧問、岩田正直副会長よりご祝辞を頂き、盛大に開催できました事を心から厚く御礼申し上げます。

開催にあたり、中部展実行委員会の先生方、関係各位には、献身的なご協力をいただき、無事終了できました事を深く感謝いたします。

村越龍川先生に文化庁長官表彰

産経国際書会最高顧問、村越龍川先生(88)が、平成29年度の文化庁長官表彰に選ばれ、12月15日、東京都千代田区の文部科学省講堂で、宮田亮平文化庁長官から表彰を受けられました。同表彰は文化活動に優れた成果を示し、我が国文化の振興に貢献した人や団体が対象です。

村越先生は、平成19年の第24回産経国際書展で内閣総理大臣賞を受賞。書家として優れた作品を発表するとともに、地元浜松を中心に多くの後進を育てたことが評価されました。書会からの受賞は、平成26年の手島泰六名誉顧問以来3年ぶり6人目となります。

村越先生、おめでとうございます。



宮田文化庁長官(左)から表彰を受けた村越龍川先生=文部科学省講堂

第34回 産経国際書展瀬戸内展 贈賞式祝賀会



実行委員紹介

瀬戸内展

瀬戸内展実行委員長
世木田江山

会期●11月21日(火)～26日(日) 会場●広島県立美術館



ワークショップ完成図

第34回産経国際書展瀬戸内展は、例年通り広島県立美術館で11月21日より26日迄開催されました。本年は中部、関西展に挟まれての会期で関係者の方々にご迷惑をかけましたが、展覧会は漢字、仮名、現代書の案分もよく、楽しく見られるといつも通りの評判をいただきました。

特別賞受賞者によるギャラリートークに



展覧会会場風景

も、今年初めて試みた入場者参加型の、葉書大の紙に1～2文字を書いて貼り繋ぎ一つの大きな作品を完成させるというワークショップにも多数の参加がありました。

贈賞式には、伊藤富博事業本部長、勝田晃拓副理事長の挨拶をいただきました。今年は例年に比しとても多くの受賞者があり式も盛り上がりしました。祝賀会では広島県議会議員奥原信也様、広島県書美術振興会理事長村上俄山様のご祝辞をいただき、鎌田悠紀子常務理事の乾杯で祝宴となりました。とても和やかな会が続き最後に実行委員の紹介、大庭庭峰副実行委員長の閉会の辞で盛会のうちに終了しました。

ご多用の中、遠方よりご出席いただきました書会幹部の先生方、ご来賓各位、また広報にご尽力下さった産経新聞広島総局の方々に厚く御礼申し上げます。

寺尾桂翠先生急逝



瀬戸内展前実行委員長で、産経国際書会副理事長の寺尾桂翠先生が、展覧会終了からわずか5日後の12月1日、くも膜下出血のため急逝されました。78歳でした。長年瀬戸内展の発展に貢献された寺尾先生は、今年の産経国際書展で中国大使館文化部賞を受賞。瀬戸内展祝賀会では、壇上でお祝いの花束を贈られ＝写真、「一層の精進を重ねたい」と意欲を示されたばかりでした。謹んでご冥福をお祈りします。



U23部門の入選表彰

関西展

関西展実行委員長
正川子葉

会期●11月28日(火)～12月3日(日) 会場●大阪市立美術館

第34回産経国際書展関西展も盛会のうちに無事終了させていただき、皆さまのご協力のお陰と心より感謝致します。

心配されました朝夕の寒さも連日、暖かい日に恵まれ初日より例年にない観客動員が出来、約2,000人の方が足を運んで下さいました。

贈賞式・祝賀会は『大阪天王寺都ホテル』で行われ、受賞者の数も昨年を上回る153名と大きく前進出来、35回記念展にむけての意気込みが感じられました。

特に関西は、ジュニアからU23へのかけ橋になる若者に期待をかけ、学業重視の世の中において、この大切な時期に書を継続しても

らえるように、色々な企画をしています。

中でもU23の受賞者全員を壇上で全員表彰、祝賀会も招待するという異例の企画により大いに盛り上がっております。

時代の変化に伴い、古典を守りながらも創意工夫をこらし、今世の中の人は何を求め、何に興味をいだいているのかをしっかりと掴み、広く世間に受け入れてもらえる方向性を考える時期と、役員一同大いに知恵を出し合っておる次第です。

35回記念事業にむけての課題を一つ一つクリアし、夢と希望が与えられる書作品作りを大いに楽しみたいものです。



各地方展でも展示された「ジュニア書道展」の上位入賞作品



関西展のメイン壁面

高円宮賞

風岡五城



本展贈賞式の感激がまださめやらぬ8月27日、名古屋城を間近に望むホテルウエスティンキャッスルにおいて、高円宮賞受賞を記念して祝賀の宴を開いていただきました。社中の幹部諸氏が実行委員会を立ち上げて、日時、会場などいろいろと検討してくれましたが、適当な会場が見つからず、結果的に宏道書会展最終日の懇親会と併せて行うことになりました。

ご来賓には愛知県知事大村秀章様、産経新聞社会長熊坂隆光様、書会最高顧問村越龍川・田中鳳柳の両先生をはじめ、書会幹部の先生方多数のご臨席を得て、和やかな賀筵となりました。誠に有難く厚く御礼申し上げます。席上、身に余るご祝辞にはただただ恐縮ばかりでしたが、社中の代表者から花束をいただいた頃には顔の表情も緩んだようです。

多くの方々に支えられて今の自分があることを身に染みて感じる一時でした。今後一層の向上をめざして心新たにするとともに、書会の発展に向けて微力を尽くす覚悟です。
(風岡五城)

内閣総理大臣賞

青陽如雲



さる9月21日、同巧会の主催で今般の内閣総理大臣賞受賞の祝賀会を挙行して頂きました。内々のささやかな祝宴ということでお招きできなかった先生方には心から申し訳なく存じております。ご容赦下さい。

祝宴は各界の先生方のお褒めの言葉に始まり、私の御礼挨拶、風岡五城先生の乾杯御発声と続き、至極スムーズにとり行われました。司会は同巧会副理事長の武富明子がつとめました。アトラクションも津軽三味線で、祝宴を盛り上げてくれました。

私は二十余年前の会社退職送別会以来の盛大な祝宴にすっかりうかれてしまい、まともな御挨拶も出来ず、失礼の限りでございましたが、人生のラストを飾るイベントとしてこれ以上のものはなかったと有り難く思いました。書を続けて本当によかったと思いました。御遠方より御来賀下さいました先生方をはじめ、私めのためにお越し下さいました皆様様に心より御礼申し上げます。
(青陽如雲)

理事会で来期の概要決まる



平成29年度産経国際書会理事会が12月4日(月)、東京都千代田区の手町サンケイプラザで開かれました。はじめに、産経国際書会会長の飯塚浩彦産経新聞社社長から挨拶が

あり、書会の皆様の頑張りへの感謝と、来年の35回記念展に向けての期待、また、産経新聞社として新年から月1回、全国版で書道のページを制作(20p参照)し、書会を応援していくことが述べられました＝写真上。次いで、渡邊麗理事長代行が、都合で急きょ欠席となった風岡五城理事長の、「第35回記念展の成功に向けて、絶大なるご支援、ご協力をお願い致します」というメッセージを読み上げました＝写真下。

4月から11月までの事業報告、次年度スケジュールの説明のあと、第35回記念展について、①第35回限定の記念賞を設ける。評議員と非役員の審査会員、無鑑査会員、会友の3つのカテゴリが対象で、いずれも最高点の作品に贈られる②複数出品の奨励として、2点目以降の出品料5000円を3000円とする③第2分野への出品促進と、高齢等により第1分野に出品できなくなった人への救済措置として、第2分野の出品料を現行の1万3000円から1万円とする(詳細は出品要項参照)などが承認されました。

来季の人事案については、35回記念展を書会の総力を挙げて成功させ、出品数の増大、会員増加への突破口としていくための体制が承認されました。就任4年目となる風岡理事長が35回記念展実行委員長、台湾展開催委員長を兼務し、執行部役員では、新理事長代行に坂本香心副理事長、新副理事長に高木撫松、松井玲月両常務理事が選任されました。理事長代行は、現在の渡邊理事長代行との2人体制で理事長を支えます。飯塚会長に対する書家代表の副会長として、伊藤欣石名誉理事長が就任。生田博子副会長は名誉顧問、岩田正直、田村政晴副会長は常任顧問にそれぞれ昇任されます。

また、佐々木月花名誉顧問が最高顧問に昇任され、最高顧問は4人となります。新常任顧問は、上記お2人と、宮崎春華顧問、小林静洲副理事長、岩下鳳堂、上野鶴陽両常務理事の合計6人、参与2人、常務理事8人、専管理事6人、理事12人、監事2人が昇任、審査会員、無鑑査会員、会友については合計232人の昇任を発表し、了承されました。

(事務局)



平成29年度顧問会議

毎年秋に1回開催されている顧問会議が、10月24日(火)に産経新聞社7階会議室で開催されました。田中鳳柳、村越龍川両最高顧問、石川天瓦、竹澤玉鈴、山下海堂名誉顧問、今口鷺外常任顧問、五十嵐光子、宮崎春華顧問に、伊藤欣石名誉理事長、風岡五城理事長が参加、事務局からは、伊藤富博事業本部長、福本雅保会長代行、糸雅人事務局長が出席しました。第34回展の報告では、今回から実施された会友特別賞の新設、会友賞の増加について、受賞作品の質の維持の大切さと、特に地方の会員にとって、産経展で受賞する事の重みなどが話題に出ました。会議後の懇親会には、飯塚浩彦産経新聞社社長が途中参加。顧問の皆様との懇親を深めました。

(事務局)

第35回記念 産経国際書展 募集要項

変更点

前回と変わるところは以下の通りです。

1. 複数出品の料金を3,000円とします。
2. 第2分野の料金を10,000円とします。
3. 第35回記念賞を審査会員(評議員以下)、無鑑査、会友の3部門にその部門の最高賞として設けます。

【出品資格】 18歳以上の方ならどなたでも、但しU23は高校生以上23歳まで(平成30年4月1日現在)

【作品部門】 (各部門とも未発表作品に限ります)

- 漢字部門：A 20字以内 B 21～200字以内 C 201字以上
- かな部門
- 現代書部門：A 少字数書(4字以内) B 近代詩文書(漢字かな混じり文) C 墨象 D 刻書
- 臨書部門：A 漢字 B かな ※出典は自由
- 篆刻・刻字部門：A 篆刻 B 刻字 ※この部門は第1分野です
- U23部門：年齢制限(高校生～23歳)のみ、すべてのジャンルの書作品を同じ土俵で審査します。

【作品寸法】 (仕上がり寸法を基準とする)

第1分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法＝基準寸法
A	240cm×60cm	8尺×2尺(242cm×61cm) 縦のみ
B	180cm×60cm	6尺×2尺(182cm×61cm) 縦横自由
C	135cm×105cm	4.5尺×3.5尺(136cm×106cm) 縦横自由
D	135cm×70cm	5.8尺×2.8尺(176cm×85cm) 縦横自由
E	180cm×90cm	6尺×3尺(182cm×91cm) 縦横自由
F	120cm×120cm	4尺×4尺(121cm×121cm)

※紙寸法聯落以上の作品であること(但し一つの詩・詞で半切2枚の貼り込みは可)。

※篆刻・刻字・刻書は規定以内であれば自由。

※「かな」の小作品でも、上記規定寸法A、B、C、D、Eに貼り込めば第1分野と認めます。

第2分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法
G	135cm×35cm	小画箋2分の1・縦横自由
H	70cm×68cm	小画箋2分の1・方形のみ

※半切は種類により寸法に多少違いがありますが、1～2cmの誤差は認めます。

※「かな」の小作品は、上記規定寸法F、G以外でも第2分野として認めますが極端に小さい作品は不可。

【出品料】 一般部門 第1分野(税込み)＝1点13,000円、第2分野(税込み)＝1点10,000円
※日本国籍以外の方1点＝8,000円

U23(高校生以上23歳まで)部門＝1点5,000円、但し「2018ジュニア書道コンクール」高校生A部門出品者はU23部門の出品料(1点)を無料とする。

※分野にかかわらず複数出品の場合(2点目以降)1点3,000円

【賞】 高円宮賞、産経大賞など特別賞と特選、秀作、入選など。

【応募締切】 平成30年5月7日(月) 午後3時までに指定表具店(別記)に搬入をお願いします。

【発表】 平成30年7月中旬 産経新聞紙上にて。

【贈賞式】 平成30年7月31日(火)、明治記念館(東京都港区元赤坂)

【展覧会】 会場：東京都美術館 東京都台東区上野公園8-36

会期：平成30年7月27日(金)～8月3日(金)

開館時間：午前9時半～午後5時半 入場は5時まで

入場料：500円(心身に障害のある人と付き添いの方1人、65歳以上、および学生は無料)

展示作品：秀作以上の入賞作品、地方展(東北、瀬戸内、中部、関西)展示エリア以外の入選作品

問い合わせ 詳細な募集要項と出品票は産経国際書会までご請求下さい。

第35回記念 産経国際書展 審査員(予定)

●特別選考委員

石川天瓦、伊藤欣石、加藤深流、齋藤香坡、晋鷗、青陽如雲、竹澤玉鈴、田中鳳柳、手島泰六、原田圭泉、堀晃和、村越龍川、山下海堂、吉野毅

●審査員

漢字／青木錦舟、今井軒石、大庭清峰、勝田晃拓、菅井裳雲、坂本香心、高橋翠石、中井庭峰、橋本旭石、久田方琥、平岡雄峰、堀川梨華、前田聖峰、山本晴城、吉本麗竹

かな／今口鷺外、岩間桃香、鎌田悠紀子、鈴木蒼、宮川彪子

現代書／青柳光草、生田博子、岡野蒼生、小川艸岑、梶原碧川、佐藤翠香、建部恭子、中西美蕙、正川子葉、町田武山、松井玲月、吉田永欽、渡邊麻衣子

篆刻・刻字／石井長慶、岩浅写心、高橋照弘

臨書／伊藤春魁、大澤芳洲、風岡五城、森井翠鳳、松崎龍翠

U23／泉芳秋、岩間清泉、遠藤乾翠、金丸鬼山、戸田汀香

2018産経ジュニア書道コンクール

今年から高校生A部門に小画仙よこ半切(たて68cm×70cm)が加わります。
出品料は3,900円。軸装にして返却します。※返却料はご負担ください。

開催要項

会 期	平成30年 7月27日(金)～8月3日(金)	贈 賞 式	平成30年 7月28日(土) 午前11時(予定)
	午前9時30分～午後5時半(最終日は午後3時まで)		平成30年 4月中旬に発表します。審査長は高橋照弘、実行委員長は眞田朱燕。
応募資格	前期＝7月27日(金)～29日(日)	発 表	入賞者氏名は平成30年 7月中旬の産経新聞紙上(予定)で発表します。
	後期＝7月31日(火)～8月3日(金)		
応募点数	※7月30日(月)は展示替えのため休室	募集期間	平成30年 5月1日～6月2日消印有効
	幼年、小学生、中学生、高校生		
会場	一人何点でも可	搬入場所	〒234-0054
	東京都美術館 2階第4展示室		神奈川県横浜市港南区港南台7-51-12
賞	文部科学大臣賞など特別賞。推薦、特選、秀作、佳作となります(中学生以下)。		藤和額装内
	文部科学大臣賞・ジュニア大賞と産経新聞社賞受賞者(高校生)は「2018日本台湾交流書道展」にご招待します。		「産経ジュニア書道コンクール」係 ☎045-833-5273

出品規定

		幼 年	小学生	中学生	高校生
書 体		楷書		楷書または行書	自由
大きさ	A 部門	八つ切り			小画仙たて半切 〃 よこ半切
	B 部門	半紙			半紙または半切よこ 4 分の 1 縦横自由
作品への名前等 の書き方		年齢と姓名 姓名どちらかでも可	学年と姓名 小 1、 2 年は姓名どちらかでも可		名前(姓不要)の下に書 または臨と墨書
出品票		漢字でフルネームを記入し必ずふりがなを明記し、作品の左下隅に貼付			臨書は法帖名、創作は 題名を備考欄に記入

※八つ切り＝半切4分の1(たて68cm×よこ18cm)、小画仙たて半切＝たて135cm×35cm、小画仙よこ半切＝たて68cm×70cm、半切よこ4分の1＝たて34cm×35cm ※多少の誤差は認めます。

※多少の寸法誤差は認めます。

※規定の出品一覧表を添えてください。

	規定の漢字数	参考課題	
幼年	規定なし	つり	みこし
小1	規定なし	うちわ	かみなり
小2	規定なし	日かげ	ゆうだち
小3	漢字1字以上	はな火	水しぶき
小4	漢字2字以上	子ども会	温かい手
小5	漢字3字以上	強い意志	南十字星
小6	漢字3字以上	生命の尊重	伝統工芸
中学	漢字4字以上	和気致祥	筆硯得佳友
高校	制限なし(一字書から多字数)	臨書あるいは創作(書体自由)	
国際	規定なし		

※国際は外国人または国外在住の日本人 ※参考課題は、A(八つ切り)部門、B(半紙)部門共通です。

出品料

	中学生以下	高校生	国際
A部門	1,000円	3,900円	600円
B部門	600円	600円	600円

※金額は税込み、高校生A(たて半切、よこ半切)部門は軸装料含む。また、軸装作品は展覧会終了後、返却します。※但し、返送料をご負担ください。出品料は下記銀行口座にお振込みください。

みずほ銀行 大手町営業部 普通2786314 口座名：ジュニア書道コンクール

募集要項、出品票、一覧表は産経国際事務局 ☎03(3275)8902までお問合せください。

一式資料をお送りいたします。

台風一蹴 ナニワの気迫が奇跡を呼ぶ、実りある現代書研修

当日は台風直撃が予想され開催が危ぶまれるもそこは難波の底力。大した影響も無く大勢の参加者が朝早くから詰めかけた。今回は「現代書を身近に」をテーマに実技中心の研修会。午前は、山田秀園(大字)、久田方琥(調和体)、西尾蘭畦(現代かな)、諸留大穹(墨象)各分野の講師の先生が独自の表現力で現代書の魅力を披露。締めは正川子葉副理事長が多字数書を俊筆と多彩なパフォーマンスで一気に仕上げた。午後は小野亭良、松井玲月常務理事の講師が書自論を明快に熱弁、併せて鮮やかな筆の舞いに魅せられた。

実習では若手の新しい面々が果敢に現代書に挑戦し、会場内は熱気と墨気に包まれ、楽しさ溢れる表情で筆との逞しい格闘芸を思う存分見せてくれた。更に「Tシャツ」色墨書作を希望者で体験。用意した50枚を瞬く間に書き上げ群馬研修を彷彿とさせた。正に実りの秋に相応しい充実内容で大変な盛り上がりを見せ、今後の飛躍が期待できる研修会となった。



準備万端



さあ、筆を選んで



書いてみた！



指導する松井先生



正川先生、小野先生、久田先生(左から)

第34回 産経国際書展 新春展

◆会期 平成30年1月24日(水)～2月5日(月) 1月30日(火)休館
午前10時～午後6時(最終日は午後3時)

◆会場 国立新美術館 2階B・C・D展示室

◆入場 500円(大学生以下、65歳以上は無料)。

※1月25日(木)午前11時から展覧会会場でギャラリートーク、午後1時から同館3階講堂で台湾書家・張炳煌氏(淡江大学教授)による講演「台湾書道事情―于右任から現代まで」を行います。なお、張先生は日本語で講演します。また、午後4時から原宿のレストラン「ベニーレ・ベニーレ」にて贈賞式・祝賀会を行います。
※今回は、代表展215点、新春展Ⅰ148点、新春展Ⅱ510点、合計873点を展示します。

また、大作は、大庭清峰、菊山武士、須田紅鸞、高橋照弘、建部恭子、戸叶幽翠、正川子葉の7人が出品しています。(敬称略・五十音順)



新春展Ⅱの審査は12月8日(金)、東京・六本木の国立新美術館地下1階の審査室で高橋照弘、武富明子、松崎龍翠、村田白葉、渡邊麗の5人の先生方により510点の作品の審査が行われました。受賞者は以下の通り

〈会友奨励賞〉

アラン・ロワ、小田木道代、小野寺聖乗、西島良祐、牧野翠苑、渡辺吾風、渡辺青枝

〈産経新聞社賞〉

伊藤俊明、江上真悟、大畑曲葉、坂井礼子、鈴木翠仙、照井真風、三井里枝子

〈奨励賞〉

市村翠祥、岩崎等、白井桂喜、大野愁保、刈米紀子、黒岩光泉、桑祐加、小坂葵翠、小島沙雅野、小島培風、小林允州、小堀望、小森彩仙、近藤沙月、齊藤玲月、佐保祥苑、篠原良栄、園田桃香、高田明仙、田中康伸、土田真山、土屋荷香、当間香蘭、中村葵祥、西山秀光、原幽月、原田葵香、半谷松華、福谷玉輪、水崎明華、望月瀨山、山本祥月、與口章翠、連由貴子、渡辺美波、藁科紅洲

受賞者が
決まりました!

吉田玉雲先生を偲んで

常任顧問で、平成22年第27回産経国際書展で内閣総理大臣賞を受賞された吉田玉雲先生が11月13日、扁平上皮がんのため死去されました。91歳でした。慎んでご冥福をお祈りします。

吉田玉雲先生を思う



長い教員生活において青少年育成にご尽力され、特に地域住民とのコミュニケーションをもとに教育された、と聞いている。書の道は古く、公職定年後は本格的に邁進され、後進の指導を行い高く評価されていた。平成19年5月の群馬県甘楽町での産経国際書会研修館設立に際しては、地元と書会との連携役となり実現にこぎつけた経緯があり、研修館においては1年中会館の整理、周囲の草刈など緩まぬご尽力をいただいていた。物事に向かわれる姿は気骨ある高潔な人柄に清廉潔白、精妙にして情熱が伝わる人柄であった。

今秋にわかに体調を崩して病床に伏せられ、11月13日に91歳の天寿を全うされました。同14日は多くの地元の方々が集まり盛大な通夜が営まれ、長い間親しく接していただいた私も心の中聲涙の日となりました。産経国際書会は貴重な先生を失いました。

研修館での書を通しての組織の高まりと書芸術がひとりでも多くの人々に感動を伝え、新たな文化創造の輪が広がっていくことを願ってやみません。産経国際書会の基はここから生まれてきたことを念頭に記して。

(名誉顧問 山上海堂)

書 展 ト ピ ッ ク ス

「公益信託 國井誠海書奨励基金二十周年記念書展」

渡邊 麗

会期●9月17日(日)～21日(木) 会場●上野の森美術館

現代書のパイオニアと言われた書家、國井誠海が現代書における次代を担う優秀な若手書家を顕彰、助成することにより、書の普及、振興を図り、ひいては日本文化の向上発展に寄与することを目的に平成十年、文化庁(文部科学省)主務官庁管轄の下で設定された奨励基金は、本年度で20年となり、それを記念して二十周年記念書展が盛大に開催された。



第30回記念研友社展

金丸鬼山



会期●10月10日(火)～15日(日) 会場●東京銀座画廊美術館

第30回記念と言う事もあり、例年より出品者数も増え盛んな書展となりました。産経国際書会の先生方を始め、読売、毎日の先生方、会員の家族等多くの御来観を頂きました。更に会場を盛り上げたのが田中会長所蔵の貴重な作品の内、明末清初の康熙時代の四大家「汪士鋐・姜宸英・笪重光・何焯」の特別展示でした。中でも汪士鋐の小楷卷子は来場者の目を釘付けにしました。

五月女紫映パリ個展

五月女紫映

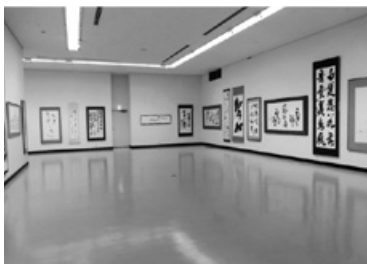
会期●10月10日(火)～17日(火) 会場●パリ、コーザンエチエンヌギャラリー

パリ個展のお誘いを受け、今まで東京で4度の個展を経験し一度海外でやってみようという気持ちになりました。しかしどんな作品を書いてよいやら…? 試行錯誤の結果、結局いつもの自分らしいものを書くことに。刻書も含め27点。たくさんの質問と感想アンケートを戴き、貴重な体験となりました。産経新聞パリ支局の取材に厚く御礼申し上げます。



第5回海游舎書展

高木撫松



会期●10月20日(金)～25日(水) 会場●埼玉会館

第5回海游舎書展を、新装なった埼玉会館大展示場にて開催しました。会長の山下海堂、高木撫松、青木錦舟三人が大作を8時から12点展示した事、会長賞、記念賞、産経新聞社賞他の賞を設けたことが特徴となり、観る人から、積極的に挑戦して行こうと云う力をもらったとか、心から感動したとの声を多くいただきました。

松村竹扇書展

松村竹扇

会期●10月23日(月)～25日(水) 会場●八戸市はっちシアター

荒削りだとしても切れば血の出る「初の素人展」は刺激的だった。漢字の豊饒の世界の美味に逆らえるわけなし。コマ劇場支配人経歴を持つ人の鋭角評言、2日間連続展覧会に通ってくれた人、「作品を売ってくれないか」と言った人。新人の書き手には刺激的で己の不勉強を悔いだけだった。勉強になりました。八戸臨泉会の後援が励ましとなりました。



第35回記念硯田社書展

橘 黄華

会期●11月10日(金)～15日(水) 会場●高新画廊(高知市)

深秋の中、第35回硯田社書展を高新画廊にて開催いたしました。硯田社は故中平松鶴師が「一木会」から「硯田社」と改め昭和57年に1回展を開催、以来35回の書展となりました。会期中は沢山の方々から、個性があり明るく楽しい書展とのお言葉や多くの激励をいただきました。これからも一同心をあわせ古典を大切に平正、平明、平凡で品位ある書を目指して参りたいと思います。



第25回記念柏葉書展

高頭子翠

会期●11月11日(土)～14日(火) 会場●柏市民ギャラリー(パレット柏3F)

第25回記念柏葉書展を、新しい会場で開催、明るく落ち着いた雰囲気作品95点を展示。大字、現代書、漢字、臨書、詩文書、かな等、会員のさまざまな向合い方で表現が多彩となり、約千人の方々に御来場頂き連日賑わい、書会から伊藤本部長をはじめ多くの先生方に御高覧賜わり御指導頂きました。これを糧に次回に向けて精進してまいります。

第30回公募日書美展

樽谷龍風

会期●11月11日(土)～12日(日) 会場●岸和田市立文化会館

一般部35点、学生部546点を展示、第1回展は、平成元年11月に同じ場所で一般部500点、学生部2,100点の出品を数えました。そして、今回30回展を迎えることができました。当初は各派ともに激しく競い合い、内閣総理大臣賞を頂戴したことが今も記憶に残っています。これから頑張りたいと思います。産経書会の皆様にはよろしくご指導いただきますようお願いいたします。



「書・墨・アート Vol.8 渡邊麗展」一書のカタチ・つながる輪一 渡邊 麗

会期●11月7日(火)～12月3日(日)
会場●杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」Gallery アソビバ

今年で8年目になる個展。本年の大作は、1.6メートル×10メートルの紙に東京国際フランス学園の生徒達(フランス人、日本人、その他各国を含む約530名)と書のコラボレーションで制作した作品を展示。会期中には生徒達がバスを連ねて連日来観。書を世界に広める国際交流の場として、大いに会場が賑わいました。



乾翠のこんにつたⅦ展

遠藤悠翠

会期●11月28日(火)～12月3日(日) 会場●銀座鳩居堂画廊3階

今秋は幸いなことに、シャンソンのコンサートに3回出かけることができた。シャンソンを聞けばロートレックを思い出す。パリのモンマルトルとも重なる。遠藤乾翠の“こんにつたⅦ”がこのような日本の伝統文化の発信に寄与できればと秘かに願っている。いつの日になるか。7回展も盛況の裡に終えることができた。多謝。



各会書展お知らせ(産経新聞社後援)

〈平成30年1月～5月〉 ①会期 ②会場 ③代表名

1月

第17回泉の会新春作品展

- ①1月9日(火)～1月14日(日)
②四街道市市民ギャラリー
③梶谷 綾泉

第16回書道五月女紫映社中展

- ①1月21日(日)～1月27日(土)
②東京交通会館ギャラリー2階
③五月女 紫映

2月

第36回埼玉県中央書道展覧会

- ①2月2日(金)～2月7日(水)
②上尾市民ギャラリー
③細渕 柳青

第81回龍峡書道展

- ①2月6日(火)～2月11日(日)
②東京都美術館
③林 龍成

第36回全国公募 学生部併催 煌心展

- ①2月12日(月)～2月18日(日)
②東京都美術館
③松崎 龍翠

第33回景雲社「絆」書道展

- ①2月14日(水)～2月21日(水)
②磐田市立中央図書館 1階展示室
③勝田 晃拓

第29回書成会書展

- ①2月20日(火)～2月25日(日)
②セントラルミュージアム銀座
③田村 政晴

第57回同巧会書展

- ①2月20日(火)～2月25日(日)
②銀座かねまつホール
③青陽 如雲

3月

第8回墨竿展

- ①3月2日(金)～3月5日(月)
②文京シビックセンター1階
③真田 朱燕

第39回選抜研墨展

- ①3月12日(月)～3月17日(土)
②小津ギャラリー
③島村 谿堂

第46回八戸臨泉会書展

第69回八戸臨泉会学生書道展

- ①3月24日(土)～3月25日(日)
②八戸ポータルミュージアムはっち
③佐々木 月花

5月

第45回鍾雲書道展覧会

- ①5月19日(土)～5月20日(日)
②寄居町立総合体育館・アタゴ記念館
③大澤 芳洲

催 事 一 覧

催事名	展覧会場	作品締切	展覧会期	贈賞式会場	贈賞式日程
第34回産経国際書展 新春展 (代表展併催)	国立新美術館		1月24日(水)～2月5日(月) 10:00～18:00(最終日15:00迄) 1月30日(火)休館 1月25日(木)11:00～ギャラリートーク 13:00～講演会(張炳煌氏)	原宿レストランテ ベニール・ベニール	1/25(木) 16:00～ 18:30
産経国際書会総会	大手町 サンケイプラザ		4月17日(火) 14:00～16:00		
第35回記念産経国際書展 審査会	シアター千住1010	5月7日(月)	5月21日(月)～25日(金)		
2018ジュニア書道 コンクール審査会	東京都美術館	6月2日(土)	6月16日(土)、17日(日)		
第35回記念産経国際書展 本展	東京都美術館		7月27日(金)～8月3日(金) 9:30～17:30(最終日は14:30まで) ※7月30日(月)一部掛替えあり	明治記念館	7/31(火) 16:00～ 19:00
2018ジュニア書道 コンクール	東京都美術館		7月27日(金)～8月3日(金) 9:30～17:30(最終日は14:30まで) ※7月30日(月)一部掛替えあり		7/28(土) (予定)
第35回記念産経国際書展 東北展	せんだいメディア テークギャラリー		9月7日(金)～12日(水)	ホテル メトロポリタン仙台	9/9(日)
第35回記念産経国際書展 瀬戸内展	広島県立美術館		9月25日(火)～30日(日)	広島ガーデンパレス	9/29(土)
産経国際書会 創立35周年記念 2018日本台湾交流書道展	国立國父記念館 (台北)		10月27日(土)～11月4日(日)	開幕式 10月28日(日) 15:00～ 同館講堂	
第35回記念産経国際書展 中部展	名古屋 電気文化会館		11月13日(火)～18日(日)	キャスルプラザ	11/18(日)
第35回記念産経国際書展 関西展	大阪市立美術館		11月27日(火)～12月2日(日)	天王寺都ホテル	12/2(日) 12:30～
理事会	大手町 サンケイプラザ		12月3日(月)14:00～16:00(予定)		
第35回記念産経国際書展 新春展 (代表展併催)	国立新美術館		平成31年1月23日(水)～2月4日(月) 10:00～18:00(最終日15:00迄) 1月29日(火)休館		

追 悼

次の先生方が黄泉につかれました。

本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

常任顧問 吉田 玉雲(平成29年11月) 副理事長 寺尾 桂翠(平成29年12月)
理 事 森谷 草翠(平成29年11月) 会 友 小島 澄水(平成29年9月)

編 集 後 記

2018年、新しい年が始まりました。

皆様にはご健筆でお過ごしのことと思います。

本年も「新春展」から開幕、夏の本展「第35回記念産経国際書展」、そして秋には「2018日本台湾書道交流展」が開催される記念すべき年となります。

書道界、そしてその他の分野、また日本全体的にも高齢化の波がおしよせていますが、
その中で若い世代も一生懸命、力を発揮しています。

書会の5年後、10年後のビジョンを見据えて、更なる国際交流、クオリティーの高い
作品制作に挑み、益々、会員皆で一致団結して日本の書文化を広め、書友を増やし、盛
り上げていこうと世代を超えて皆が願っていることと思います。

今年も皆様にとってますます活躍の年となりますよう、また、書会の飛躍と発展を祈
念しております。

(渡邊麻衣子)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

産経新聞全国版の書道ページが1月からスタート

産経新聞社で、1月から月1回、書道のページがスタートします。タイトルは、「書は人なり」。書会を支えてきた各社中の歴史、発行する競書誌、教室などにスポットをあて、日頃の活動ぶりを、書道にまつわるコラムなどとともに紹介していきます。書会にとっても悲願だった全国版での掲載です。第1回は1月中旬に掲載予定(東西で掲載日は異なります)。東日本版で原則毎月末の金曜日に掲載している「墨と筆～産経国際書会だより～」も継続します。ぜひご愛読ください。あわせて産経新聞愛読キャンペーンも実施しますので、こちらもよろしくお願いいたします。(事務局)

編集・発行 平成30年1月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

表紙：題字揮毫は風岡五城理事長

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等
の変更があった場合には事務局
までご連絡くださいますよう、また、
各会書展のお知らせは早めにお
願い致します。